

令和二年度 学校自己評価システムシート (県立浦和高等学校)

目指す学校像	尚文昌武の理念のもと、時代の求めるリーダーの育成を目指す。
--------	-------------------------------

重点目標	1 互いの信頼関係のもと、自走する生徒集団づくりをとおして、目指す学校像の実現に取り組む。 2 生徒に、第一志望はゆずらない、との強い信念を持たせ、全ての職員が全力をあげて教育の機会を提供し、生徒一人一人の進路実現に取り組む。 3 保護者・県民に対する情報提供をとおして、開かれた学校づくりを推進するとともに、浦和高校の良さを積極的に発信する。
------	--

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	名
	生徒	名
	事務局(教職員)	名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。

※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価 シ ス テ ム シ ー ト						
年 度 目 標				年 度 評 価 (月 日 現 在)		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度
1	各年次において「守・破・離」の理念を意識した指導が行われている。 生徒が自分自身の管理(マネジメント)を行い、集団で協力・協働することにより、主体性が最大限伸びるような指導を行う必要がある。	主体性をもって自走する生徒集団づくりをとおしたリーダー育成の推進	ア 自分・時間・モノの管理をとおして、浦高生としての主体的に取り組む姿勢を身に付ける。 イ 一人ひとりがリーダーとしての意識を持ち、それぞれの集団が主体的に学び・支え合う集団となる ウ 励まし合い、切磋琢磨し合う生徒集団を主体的に行動する集団へと進化させ、個々の人間的成長を促す。 エ 部活動方針の実施に向けて、各部で短時間で効率的な活動方法を研究する。	ア 長期臨時休校中と登校再開後においてそれぞれ自主的に自己管理を行い主体的に取り組んだという回答が平均75%を超える イ 集団としての目標・課題を考える機会を生徒たちに与え、HR会長が代表して目標と達成状況を年次通信で発信する。 ウ 卒業生アンケートで浦高生活をとおした人間的成長を感じた生徒が75%を超える。 エ すべての部活動が、部活動方針を踏まえた年間活動計画を立案する。		
2	長期臨時休校に伴う教育機会の縮小に対する補償と、生徒一人一人が主体性をもって教育活動を行える環境作りが必要である。以下の観点による教育活動の提供及び教員の経験の蓄積・共有を更に推進し、柔軟に対応する必要がある。 ①生徒が主体的で深く学べる学習機会の提供 ②基礎基本の早期定着と、書く力・考える力・伝える力の育成 ③生徒が主体となった行事運営と行事の精選 ④大学入学後までも見据えた授業内容の高度化 ⑤グローバル化社会を視野に入れた志の育成 併せて、多くの生徒が目指す国公立大学進学を現役で実現させるための学習指導・進路指導が必要である。	(1) 生徒への学習機会の提供と行事の弾力的運用の推進	ア 感染予防をしたうえで、主体的・対話的で深い学びを意識した授業の取組を組織的に実施し、教員一人ひとりの授業に反映させる。 イ 休校中のオンラインによる遠隔学習支援を継続的に行い、生徒への円滑な教材配布と生徒のサポートを行う。 ウ 生徒が主体的に、達成感をもって行事を運営できるよう、行事の精選も含めた環境を整備する。	ア 教員向け授業公開や研修会に教員が参加し、授業評価アンケートの結果をもとに各教科で授業検討会を実施する。 イ 休校期間や分散登校中、GSuiteやYoutube等を用いて、各教科(国語・数学・英語・地歴公民・理科・体育芸術家庭)週1回以上課題や教材を提供する。 ウ 卒業生アンケートの「行事の満足度」で満足と答えた生徒が75%を超える。		
		(2) 高い志を育成し、進路実現を支援する取組の推進	ア 講演会及び高大連携事業等の充実 イ 生徒の高い志を支援し、進路実現に向けた積極的な行動や挑戦する姿勢を促すための通信を発行および企画の実施 ウ 日々の授業で培った基礎を確認し、考える力を伸ばす企画の実施、学び合い互いに高め合う集団の形成を促す行事の実施 エ 自己を見つめ将来を考えるプログラムの実施 オ 国際交流事業として行うプログラムの内容の充実と、成果の普及を図る。	ア 第一線で活躍されている講師を招いての講演会、大学との連携プログラム及び医師体験の実施 イ 各年次で年12号以上の進路だよりの発行、OB受験体験講話、大学見学会の実施 ウ 共通テスト基礎演習、入試問題研究会の実施 エ 学部・学科研修会の早期実施、キャリア教育の実施 オ 英国のパブリックスクールへの派遣、オンライン授業も含めて、継続する。また姉妹校であるウィットギフト校と生徒主体の運営によるオンライン交流を行う。さらに新規事業として、オンラインによるシアトル発リーダーシップ研修を行う。		
3	HPや教育活動説明会、土曜公開授業などを通じて情報発信を行ってきた。本校の様々な取組や成果について、より積極的かつ組織的に情報を発信することにより、小・中学校の生徒・保護者をはじめとする県民のニーズに応える必要がある。	積極的な情報提供による開かれた学校づくりの推進	ア 全職員による組織的・計画的な広報活動の展開 イ インターネットを利用した教育活動説明会等の実施 ウ HP、学校情報提供の機会の積極的な活用	ア 本校の魅力の効果的に発信できるように企画立案し、運営する。 イ 本校主催の学校説明会(教育活動説明会等)にのべ2000人の参加を目指す。その際に新型コロナウイルス感染症拡大防止対策徹底を図る。 ウ HPのアクセス100万件、本校以外が主催する説明会への積極的な参加		

学校関係者評価
実施日 令和 年 月 日
学校関係者からの意見・要望・評価等